



令和5年度消費生活協同組合役員研修会を開催しました！

7月18日に、令和5年度消費生活協同組合役員研修会を開催しました。この研修会は、毎年7月に千葉県環境生活部 暮らし安全推進課との共催で開催するものです。新たな年度を迎えて、生協の事業を進める際の注意点などについて千葉県よりご助言をいただく機会としています。同時に自治体の施策や諸課題などについて学び、生協の事業と活動への知見を広げていただくことを目的としています。今年は4年ぶりの対面での開催となりました。9会員生協と1会員外生協から57人が参加しました。



令和5年度は、前段に千葉県より「生協運営上の留意点」の説明、後段に「子どもを虐待から守るために」と題した講演と分散会交流をおこないました。(以下、文責 事務局)

1. 主催者あいさつ

千葉県環境生活部暮らし安全推進課 消費者安全推進室 熊本義久室長

本県でも平成29年に、「千葉県子どもを虐待から守る条例」に基づいて「千葉県子どもを虐待から守る基本計画」を策定致し、子供を虐待から守るための体制づくりに取り組んでいるところです。核家族化が進む中で地域の意識がますます重要になっています。生活に必要な物資の供給、共済事業などを通じて、地域づくりに密着した生協が果たす役割は、こういうところにもあると考えています。是非とも今日の研修会を今後の生活協同組合の事業展開にお役立ていただければ幸いです。



千葉県生協連 首藤英里子会長理事

今回の研修では、「生協運営上の留意点について」と、「子どもを虐待から守るために」の二つのテーマでお話させていただきます。子どもへの虐待が発生する原因、防止に向けた方策などについてご説明いただき、生協として何ができるかご助言いただきます。私たち生協は、地域で暮らす全ての人々が、安全で安心した暮らしをおくることをめざし、日々取り組みを進めています。組合員活動や子育て支援の場面などで、この研修で学んだことを、少しでも活かしていただければ幸いです。



2. 講演

(1) 講演1. 「生協運営上の留意点」

千葉県庁暮らし安全推進課消費安全推進室 にえがわ 牲川智彦主事

地域活性化、コミュニティの再生のために、環境生活部や福祉部局と生協が連携を取りながら協働することが重要だと考えます。また、平成19年の改正では、員外利用として地域の課題解決をおこなう組織に対する供給も認められています。



今回は共済事業に関するヒアリング、総会及び理事会の適正な運営や関係法令に伴う生協法の改正、インボイス制度の導入などについて情報提供させていただきました。ご確認いただき、問合せなどありましたら遠慮なくご相談ください。

(2) 講演2. 「子どもを虐待から守るために」

東京経営短期大学 こども教育学科 小木曾^{おぎそ}宏特任教授



初めに、千葉県虐待死亡事故例等検証委員会副委員長である小木曾先生から「野田市女児虐待死亡事件」、「市原乳児死亡事件」の経過と概要について説明がありました。その後、分散会で「二つの虐待死亡事件を通して『課題となること』は何か?」「『予防』『対策』として考えられること」をテーマに、話し合いました。

《分散会で出された意見》

○「課題となること」は何か?

- ・「制度」だけで解決しようとするので、上手くいかない。
- ・虐待なのかしつけなのか、認識の曖昧さ、甘さ
- ・警察に通報(介入)しなかった。
- ・子ども本人がSOSを出していたにも関わらず、大人が活用できていなかった。
- ・担当者一人で対応させない。組織全体で見る。
- ・相談窓口がわからないのでは。
- ・お母さんの孤立。保育園で声をかけてくれる人がいないのか

○「予防」「対策」として考えられること

- ・子どもと一緒に関わる居場所づくり
- ・地域でのつながり。おせっかいOK
- ・窓口の周知。「相談してよい」という意識の浸透
- ・母親の気持ちに寄り添う場を作る

グループの発表を受けて、親の子どもたちへの「不適切なかかわり」と「虐待ゼロ」に向けて私たちにできることについて、お話いただきました。

「面前DV(子どもの目の前でおこなうDV)」や兄弟を比較するなどの言葉がけも、子どもを傷つける要因です。日本では、野田の事件をきっかけに体罰禁止が法制化されました。罰則はないのですが、スウェーデンやフィンランド、ドイツなど罰則のない国でも国民の意識や行動を変える効果がでています。地域、社会でも「孤立」している子どもや親たちがたくさんいます。「リスク(虐待発生の要因)」だけを親に迫ってもますます閉ざしてしまいます。どんな親でも頑張っていることがある。そこに光を当て、親が肯定され認められることで「ストレングス(強み)」を拡大すること、そういうきっかけを地域の中でいかにつくるかが問われていると思います。

3. 閉会あいさつ 千葉県生協連 尼崎英之専務理事

本日は、長時間にわたりご参加いただきありがとうございました。

今日は、児童虐待をテーマに研修させていただきました。難しい問題で、すぐに解決できるものではありませんが、死亡した児童の手紙に「あきらめないでください」とありました。あきらめず今日学んだことを周囲に伝えたいと思います。



《アンケートより》

- ・「強み」に光をあてる。肯定することで、親が救われることがたくさんあると思います。
- ・グループトークもいろいろな意見と交流ができて、とても良かったです。
- ・先生のお話の中で「地域社会が子どもを育てる」という言葉がありました。生協の活動で何ができるか考えたいです。